

第1期

令和8年度入学

宮城大学大学院事業構想学研究科（博士前期課程）

一般選抜・特別選抜＜社会人・外国人留学生＞

論述専門科目

【出題意図】

事業構想に関する研究を行うに当たって求められる、資料の読解能力、問題を構造化して理解する能力について問う。また、参考文献から得られた知見を自らの研究に応用、展開する能力について問う。

問1 著者は、「タクシー市場とラーメン市場はぜんぜん違う」と述べていますが、それぞれの市場で「供給を増やしたときの需要の変化」が違う理由について述べなさい。

【解答例】

ラーメン市場の周辺には、うどんや牛丼といったラーメンと類似した競合商品が存在する。このような状況においてラーメン屋が増え、ラーメンの供給が増加すれば、競合する他の飲食市場から需要を奪うことができ、ラーメンの需要が増えることがある。

一方、タクシー市場の周辺には、バス・電車や自家用車といったある程度似ているものはあるが、バス・電車とは値段がぜんぜん違う、自家用車は免許が必要で駐車場の確保も必要といった点で、競合する市場があるとはいえない。このような状況においてタクシーが増え、タクシーの供給が増えても、他の市場から需要を奪えるとは思えず、タクシーの需要が増えることはない。

問2 著者は、日本におけるタクシーの規制緩和がどのような問題を引き起こしたと考えているか。著者が例示しているもののうち4つを挙げ、それぞれの問題が起きた理由について述べなさい。その際、関係する他の問題との因果関係も示しなさい。

【解答のポイント】

- ・「ドライバーの収入減」「長時間労働」「ドライバーの高齢化」「タクシーの交通事故増加」「駅や繁華街での渋滞」などの問題から4つ挙げているか。
- ・それぞれの問題について、下記のような因果関係が説明できているか。
 - ・ドライバーの収入減： 「供給が増えても需要は増えない」ことで「1台あたりの需要は減少」し、その結果として「ドライバーの収入が減る」ことになる。
 - ・長時間労働： 「1車あたりの需要の減少」に対して、ドライバーは少しでも収入を増やそうとして街中を長い時間「流す」ことになり、その結果として「長時間労働」になる。
 - ・ドライバーの高齢化： 「ドライバーの収入減」や「長時間労働」によってタクシー業界の「職場の魅力が減少」し、若手が入ってこなくなり、その結果として「ドライバーが高齢化」することに

第1期

なる。

- ・タクシーの交通事故増加： 「ドライバーが高齢化」しているにもかかわらず「長時間労働」が相まって「交通事故が増加」している。
- ・駅や繁華街での渋滞： 「1車あたりの需要が減少」したことによって、より多くの客を獲得しようとして需要が多いと思われる「駅や繁華街での流しや客待ち駐車」が増加し、「渋滞」がひどくなる。

問3 物事を改善していくためには、他の事例を参考にすることが有効であり、さらに、その事例にみられる問題を構造的に理解することが重要です。このことについて、本文から読み取ることができる有効性や重要性を簡潔にまとめた上で、あなた自身が大学院で研究しようとしていることにおいて、それらをどのように取り入れることができるのか論じなさい。

【解答のポイント】

- ・タクシーの規制緩和については、他国で失敗している先行事例があるにもかかわらず、日本でそれを導入した結果、他国の事例と同様の失敗が起きていることから、先行事例の調査・研究が重要であることを述べているか。
- ・そこで起きた問題の原因や因果関係を理解すること、すなわち、構造化することによって、別の問題に応用した際に何が起こるか予想しやすくなることを述べているか。
- ・それらを自身の研究に落とし込んで論じているか。